

ジヨルニ



イタリアの幸せな食卓

giornni

ちょっと素敵な“ふだん”

おかげさまで2周年!

記念付録



1 リサ・ラーソンさん
「ラベルシール」

2 トワルド・ジュイ博物館
「復刻ファブリックカード」



Cooking 洋風大豆料理
高山なおみさん

Travel 湘南散歩
鎌倉・葉山・茅ヶ崎

Fashion
春トップス・コーディネート

Handmade
手編みシュエプローチ、
フォトフレーム

イタリア 幸せな食卓

オリーブオイルソムリエに 大坪千夏さん
南イタリア料理 池田律子さん
小さなホテル巡り
アンティーク市で雑貨買い付け



vol.9 2011 Spring



連載

ロッタ・ヤンスドッターさん「テーブルづくり」
陶芸家 リサ・ラーソンさん「春の日記」

フランス トワルド・ジュイ博物館 復刻ファブリック

定価980円

発行所



レティツィア・ヌーティさん

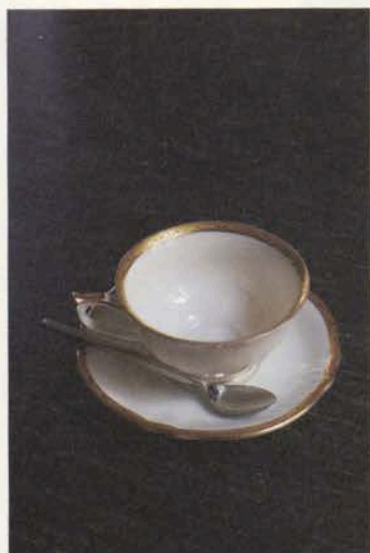
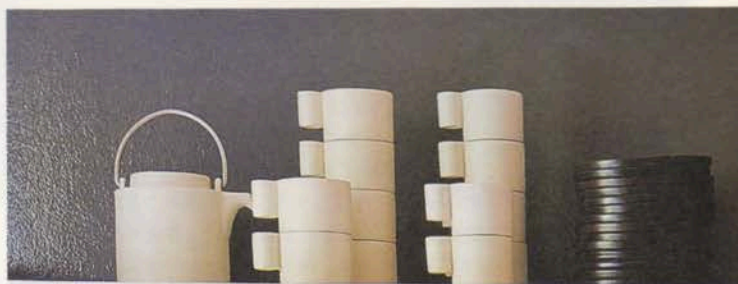
ロンドンの骨董市で一目惚れした18世紀の英国アンティーク。全部で24セット購入し、アグリツリーズモのダイニングの飾り棚にディスプレイ。「実は、ここからひとつを取り出しては毎日使っているの。これだけは私のものよ。みんなに内緒の楽しみなの(笑)」(P.30)。



あの人のうちの カップ & ソーサー

ベンタ・ウィリーさん

地元のマーケットで購入したスイス製のカップとポット。機能的かつ美しいスタイルがお気に入り。パーソナルにもフォーマルにも日常で愛用中。お茶もコーヒーも大きなポットに入れて大胆に注ぐのが定番だそうです(P.14)。



ミカエラ・ソレチトさん

ナヴィリオ運河沿いで毎月最終日曜に行われるアンティーク市で見つけたカップ&ソーサー。近所なので市があるときは必ず散歩がてらのぞきに行くそう。同シリーズのティーポットも一緒に購入(P.46)。



カトリン・アレンスさん

自分が毎日使いたいもの! と、みずからデザインし、職人のハンドメイドで作り上げたティーカップ。テラコッタに白い釉薬をかけ、ぼってりとやさしい表情に。ご自身のサイトで販売中(P.39)。



ラウラ・ドラゴッティさん

部屋のインテリアにぴったりなやさしい白が特徴のセラミックカップは、ミラノでのお気に入りのショップ「CULTU」で購入。手にこちよくなじむ絶妙なカーブにハマってしまったそう(P.24)。

自然と寄り添う暮らし、 それは何より刺激的で贅沢なこと

Katrin Arens

カトリン・アレンスさん

大草原の小さな家——そんな印象を持つカトリンさんの住まい。
麦畑のパノラマに太くラインを引くアッダ川の岸辺にぼつんとたたずみます。
自分らしい時間と環境づくりを大切にする彼女。
田舎で暮らすことの豊かさ、そして自然の雄大さを日々、感じています。



プロフィール
家具、子ども服デザイナー。
ブランド「アメリア」の創始者、デザイナーを経て、ブランド「Katrin Arens」を立ち上げる。手作りをキーに、リサイクルウッドの家具や天然素材のベビー服を提案。サイトで世界各国へ販売中。
<http://www.katrinarens-shop.com>

撮影 / Alessandra Iannicillo
取材・文 / 徳永佳代 (60ochi)

カトリン・アレンスさんの住まいは、北イタリア・ベルガモの片田舎にあります。建物は、15世紀にさかのぼる元製粉場。ゴツゴツと荒削りな石や大木がつくる奥ゆかしさが今に残ります。「窓からのぞく川のせせらぎ、緑の景色と香り。不便なこともたくさんありますが、ここには私を幸せにするエネルギーがあります。自由な発想がてき、大切なことが見えてくる。とても刺激的です」とカーテンは一切使わず、景色と光を楽しんでいます。そして室内の壁はキャンパスのように真っ白。

そこに選ばれたものは、手作りを感じさせるアイテムばかり。アフリカやスペインなどからのテラコッタの食器や伝統工芸の道具類。お母さまによる油絵も。そして何よりこの家で印象的なのは、食卓から棚まで、彼女がデザインした木製家具です。実はこれ、崩壊寸前の古い建物から救い出した木材を再利用し、伝統的な職人技で作られたもの。木の素朴な表情を生かしながら、色や質感、イラストづけなどの変化で、品よく仕上げる技はさすがです。「古い物から新しい物を生み出す。それが私の大好きな作業なのです」

この家にいると、どこか懐かしい安堵感に誘われます。彼女が大切にしているモノの価値は、そんな人の心に触れる本質的な快適さにあるのです。

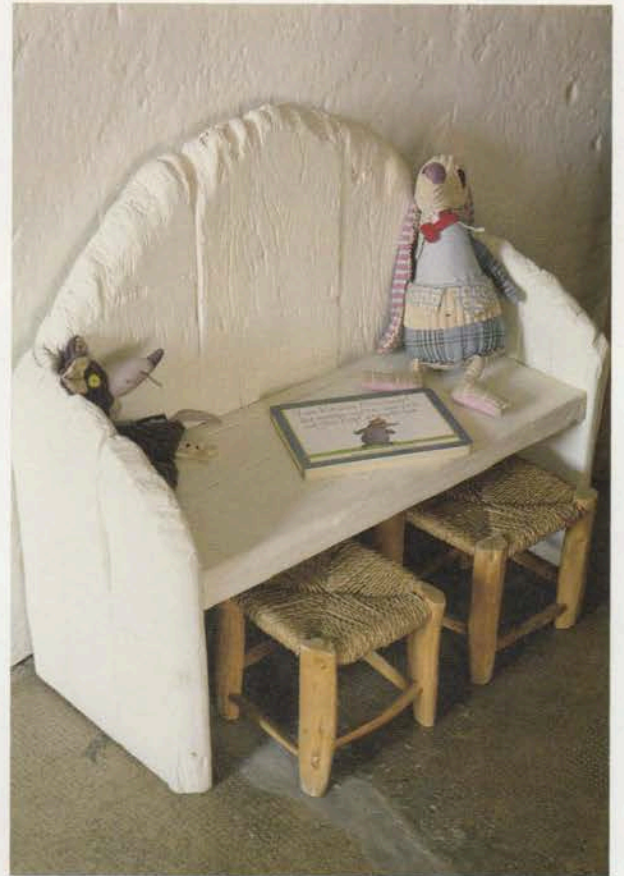
心に触れる自然素材と手作りのぬくもり



B

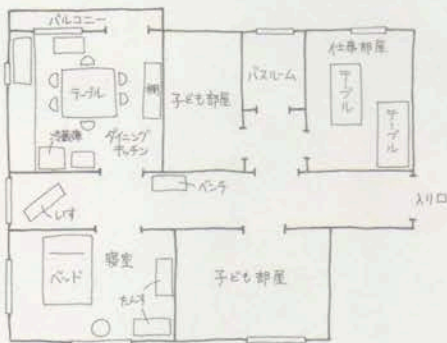


C



A

A 廊下にさりげなく置かれたベンチは、娘たちのために彼女がデザインしたもの。コーナーディスプレイとしても利用。
B 頻繁に利用する調味料は大きなプレートにまとめてセット。異国籍のテイスト違いの容器を、ミックスしてキュート。
C IKEAで購入した個性的なイクサのコンポートにボロねぎとアーティチョークをデコレーション。野菜に呼応するカラーのリネンや食器をディスプレイに。





D

D イタリア各地の伝統工芸品である木製キッチンツールは、実用、デコレーションと、両方に利用されている。ダイニングキッチンに食材をモチーフにした油絵だけを集めて飾っているのも素敵。すべてカトリンさんのお母さまの作品。

E ダイニングキッチンに利用する食器棚のひとつ。扉を留める木製バーが個性的なデザイン。家具はどれも熟練した職人によるていねいなトリートメントとフィニッシングが施されている。



Katrin Arens * 居ごこちセオリー



E



A

自然をいっぱい吸収する、シンプルでリッチな食卓

日曜日のカトリンさん一家は、お友達を誘ったランチの準備の真っ最中でした。友人を自宅での食事に招くことは、イタリアでは最高の愛情表現。そして日常的な習慣でもあります。彼女もまた、ホームパーティを催すのが大好きだそう。「仲間はみんな子どもをもつ家族がほとんど。自宅での食事は、親子が共にリラックステキで楽しめるのよ」。天気の良い日には、庭でのピクニックスタイルを。屋内での食事であっても、室内に自然をいっぱい感じられるアレンジをするのだそうです。

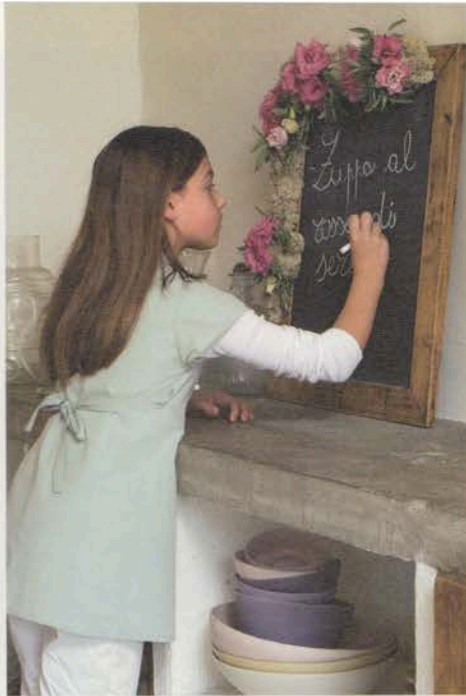
「これからの季節は重たい食事は避け、旬の野菜や果物を生かした料理でもてなします。子どもたちが大好きな典型的なイタリアメニュも欠かせません」。



B



E



C



F



D


 Katrin Arens
 *
 居こちセオリ

A 自宅で一番広いダイニングキッチン。大きな食卓やいす、食器棚もカトリンさんによる家具。食卓のモコモコランチョンは、リケーネという北欧からのドライプランツを布に縫いつけたお手製。

B バラの花びらを煮立てて作ったローズウォーターは、リラックスドリンクとしても素敵なデコレーションとしても活躍。

C 今日のメニューを書くウラちゃん。子ども部屋にある黒板も、バラとセージの葉でかわいく変身。

D オレガノいっぱいトマトのフォカッチャは子どもたちの大好物。

E 長女ウラちゃんと友人のエリーザちゃんも、カトリンさんを手伝って一緒に料理の準備。

F お豆腐もカトリンさんの大好きな食材。イタリアではまだ日常的には親しまれていない食材のため、彼女流の簡単なスイーツにしておもてなし。今日は「いちご仕立てのお豆腐ムース」。

BIO 食材を利用し、素材の持ち味を生かしたシンプルで健康的な料理が彼女流。スベルト小麦やレンズ豆を使ったスープと、手でガブリとできる子どもたちの大好物である自家製フォカッチャは定番です。どちらも旬の野菜をたっぷり利用します。「パンやパスタの生地作りは、いつも娘たちの担当です。友人の子どもたちも、準備の段階から誘って一緒に調理。素手での作業は遊び感覚で楽しいのよ。それに自分が作ったものが完成する喜びとおいしさといったら〜」。ここにも、手作りがくれる幸せがいっぱいです。

そしてこの自然の恵みは、胃袋のみならず、視覚をも刺激してきます。室内が、カトリンさんならではの自然の要素をインプットしたアレンジで満たされているのです。「特別なものはありません。旬の野菜を個性的なポットに飾ったり、庭からの花とそれに同調する色彩の食器やファブリックを引っ張り出してデコレートしてみたり」。バラの花とセージで素敵なメニューボードに変身した黒板や、ドライプランツをあしらったモコモコランチョンも、みんなをほほ笑ませます。

シンプルな料理とちよつとだけドレスアップしたふだんのダイニング。日常の延長線にある優雅な休日です。



娘たちに与えたいもの、それがものづくりの原点

子ども服デザイナーとしても名を知られるカトリンさん。伝統的なヨーロッパの子ども服をシンプルに着こちよく再構築させたスタイルがとても人気です。洋服作りにおけるこだわりもまた、天然素材とハンドメイドという点でした。「子ども服ブランドを立ち上げるなんて考えてもいませんでした。長女が生まれ、娘に着せたい洋服がなく、自分で縫い始めたのがきっかけでした。偶然にもベビーシッターが元シャツの縫い職人。一緒に作り始めたのです。その彼女の名がアメリカだったのよ」。娘たちに与えたいもの、それが彼女のものづくりの原点。当初の純粹な思いは今に貫かれています。

彼女の洋服作りのセンスは、自身の装いにも通じています。「飾り立てるのは好きではありません。TシャツのMOOREがキードと信じています。シンプルな装いほど美しく、快適、そして多くを語る、というもの」。今日もアクセサリーを一切つけず、ジーンズに黒いロングカーデガン、黒いバレエシューズという装い。ミニマムで動きやすいスタイルです。飾り気がない分、その素敵な表情や豊かなロングヘア、すらりとしたボディが印象的です。

シンプルにコンフォートを紡ぎ合わせる。彼女のスタイルに感じるのは、まさにそんな表現方法です。



C



B



A

A「Katrin Arens」のベビー服。オーガニックコットンを利用。
 B デザインした洋服だんす。お母さまによる鳥のイラストが愛らしい。
 C ワンピース+ストールは大好きなスタイル。
 D 印象的な織り生地の「Moria la Rosa」のバッグ(左・奥)、ウールジャージーを編んだバッグ(手前)はカトリンさんのサイトで販売中。
 E「Katrin Arens」のベビー服。パンツは「家族の歴史を受け継ぐ」をコンセプトにした「Vater Mutter Kind」という新ライン。男性用シャツの袖で作られている。一般家庭のパパやママのお古の洋服を募り、それてその子どもたちの服を作る、というユニークなプロジェクト。

右ページ
 自宅の一部屋にある仕事場にて。オフィスは別にあるものの、娘たちの帰宅後はもっぱらここで仕事。



Katrin Arens * 着ごちせオリー



D



E